

大切な人を亡くすということ

ワークショップテーマ

「死別を支えるコミュニティづくり～今、私たちにできること～」

大切な人を亡くした時、人は悲しみ（悲嘆：グリーフ）をはじめ、いろいろな感情、想いを抱きます。病気や事故、そして自死や災害を含め、さまざまな理由で大切な人を失うことは、いつかは誰もが経験しうることです。また、大切な人を亡くした後のケアとして「グリーフケア」の重要性が注目されています。

今回は尾角氏をお招きし、御講演いただくとともに、「ワールドカフェ」という参加者同士がカフェのような雰囲気の中での対話をベースに、新たな気づきやアイデアを創出するワークショップ形式を取り入れ、「大切な人を亡くすということ」について考える機会としたいと思います。

会場アクセス：城陽市役所西隣

(京都市城陽市寺田東ノロ 17 番地)

○近鉄寺田駅から東へ徒歩約 15 分

○JR 城陽駅から西へ徒歩約 5 分

○京阪宇治バス「城陽市役所」

下車すぐ

タイムスケジュール

10:00 開会

10:05～10:45

講演

10:45～休憩

10:50～11:50

ワークショップ

11:50～質疑応答

12:00 閉会

〈日時〉

平成 24 年 10 月 20 日 (土)

10:00～12:00 (開場 9:30)

〈場所〉 城陽市立福祉センター 1 階ホール

申込不要・参加無料

講師 尾角 光美 (おかく てるみ) 氏

2003 年 19 歳で母を自殺により亡くす。翌年からあしなが育英会で病気、災害、自殺、テロ等による遺児たちのグリーフケアに携わる。2006 年以来、自殺予防や自死遺族のケアに関する講演に呼ばれ、自治体、学校などで講演や「いのちの授業」を続ける。2009 年リヴオンを立ち上げ『102 年目の母の日』(長崎出版)編著。母を亡くした人に毎年母の日を届ける。同年、自殺で親を亡くした若者の支援スタート。死別を経験した誰もが、必要とするサポートにつながる社会の実現を目指している。

